

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

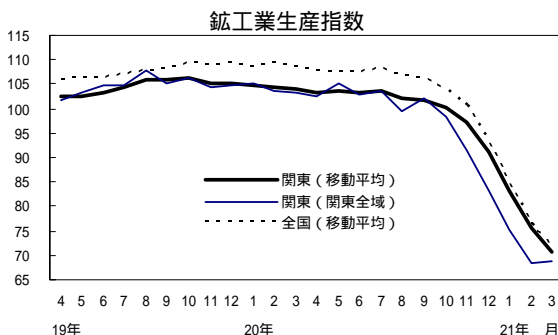
#### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成21年2月）	今回（平成21年5月）	
景況判断	急速に悪化	緩やかに悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりつつある	
住宅建設	減少	大幅に減少	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産は下げ止まりつつある。(関東全域)

輸送機械は、普通乗用車及び小型乗用車を中心に、大幅に減少しているものの、3月は在庫調整の進展もあり上昇している。化学は、ポリエチレン及び合成ゴムを中心に、減少している。一般機械は、半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置を中心に減少しているものの、3月は上昇している。電気機械は、開閉制御装置やセパレート型エアコンを中心に減少しているものの、3月は医用X線装置や電力変換装置を中心に上昇している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

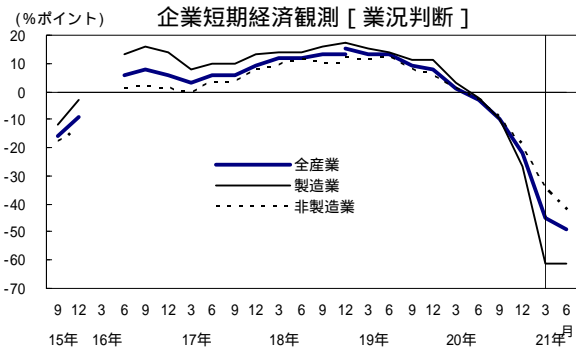
##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	15.2	18.6	42.4	36.6	37.5
化学	13.4	4.6			
一般機械	13.2	10.3	33.7	33.4	7.3
電気機械	7.8	5.5	19.3	16.7	19.8
食料品・たばこ	7.1	1.2			
鉱工業	100.0	10.6	22.2	20.6	11.6

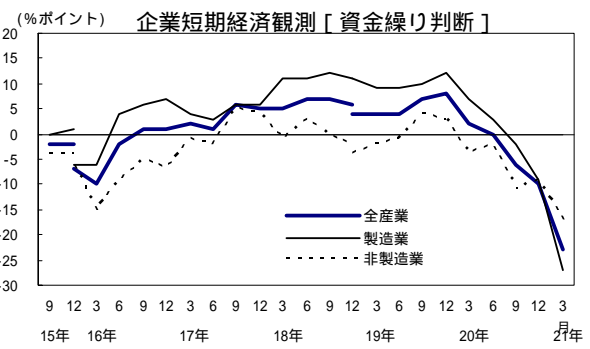
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 1~3月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

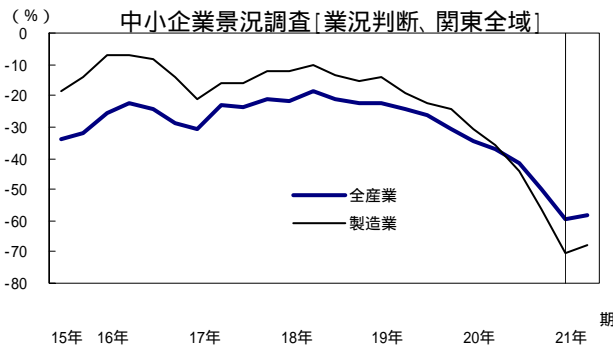
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。  
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。  
15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

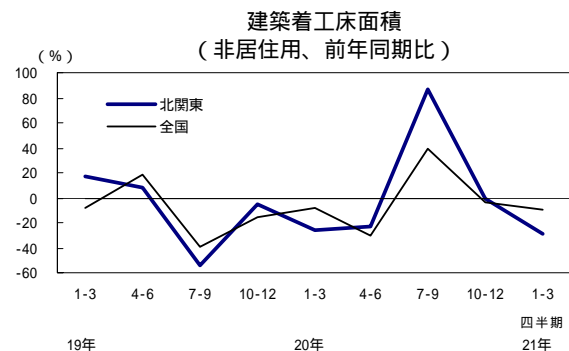
「4月は小口の出荷がいくつかあったが、当社の49年の歴史の中で初めて、100本単位の大口の出荷が0件であった。100年に一度の不景気を実感している(化学工業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	29.0 ( 6.9)	26.4
製造業	26.8 ( 9.8)	28.3
非製造業	31.6 ( 3.0)	24.2

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。  
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

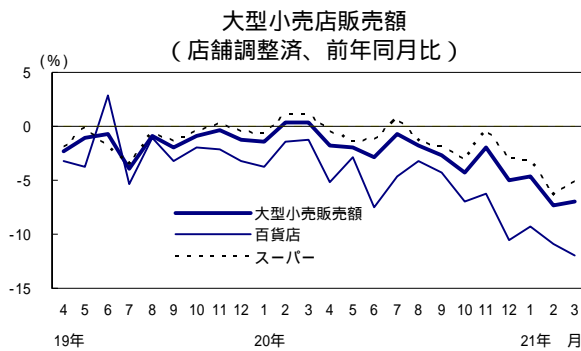
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、衣料品が全般で振るわず、気温が高かったためブーツ等の身の回り品も低調だったことから、前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦では値頃感のある商品が好調であったが、飲食料品全体では低調で、衣料品や身の回り品も低調だったことから、前年を下回った。3月は、ホワイトデー商戦も一部を除いて振るわず、飲食料品が低調であり、衣料品も、セールの前倒し等により一部に動きはあったものの、一段と不調だったことから、前年を下回った。

スーパーは、飲食料品で内食志向等により野菜等を中心に堅調も、コートを中心に衣料品が振るわなかったことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「住宅取得のための贈与税の軽減話が経済対策として取り上げられて以来、土地購入の問い合わせが増えている。ただ、成約ベースで見るとそれほど変わりはない(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

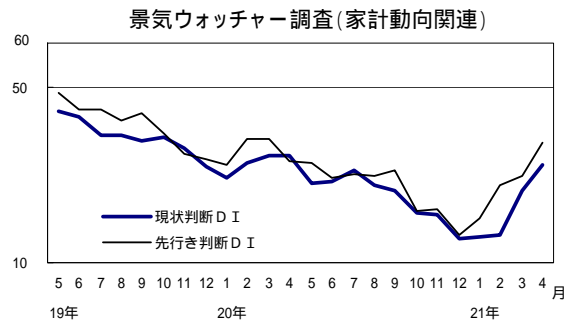
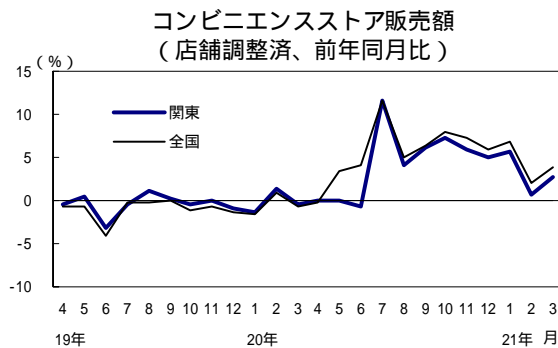


(前年同期比、%)

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	2.2	1.7	3.9	6.3
百貨店	5.3	4.1	8.2	10.6
スーパー	1.1	0.9	2.3	4.8
コンビニ	0.2	7.2	6.0	3.0
景気ウォッチャー	30.4	28.3	19.2	19.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。21年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

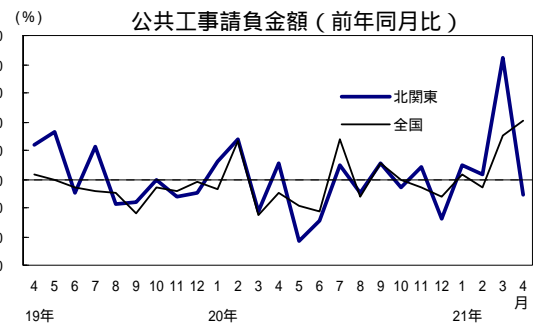
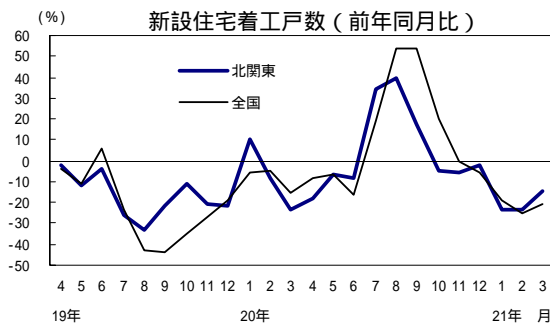
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

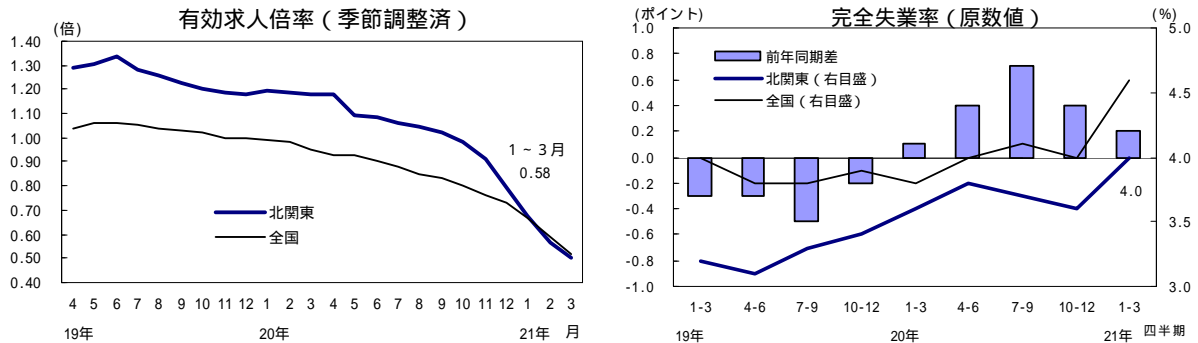


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

「3月の新規求職者数は前年比13%増であり、増加率は徐々に減速している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

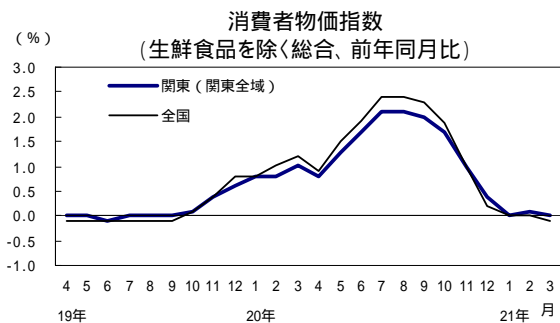
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

4月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	216	213	234	276	92
(前年比)	3.1	10.9	19.4	32.1	41.5
負債総額	600	950	1,002	1,092	698
(前年比)	42.1	8.6	18.0	2.6	509.8



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・先月当たりから客の購入、お金の使い方が戻ってきている。ゲームの景品は、カップめんやインスタントカレーのような実用品が多くなっているが、客はある程度消費に向かっている(その他レジャー施設)

<先行き>

・3か月先は30%強の増加が見込まれる。一方、前年比では20%近く減少しており、底からはい上がってきた感じだが、収益回復には至らない(輸送用機械器具製造業)

